

総括

Covid-19感染蔓延により、第29回学術集会の順延及び開催方式の変更を余儀なくされたが、関根会長以下実行委員会の尽力で無事開催することができた。また学会誌の2020年度発刊遅延があったが新編集委員会のもとで何とか2号を年度内に発刊できた。会員管理業務等の委託については2022年度の契約を締結することができた。昨年度の理事会で承認された日本学術会議協力学術研究団体の申請は遅延しているが、会員整理等を実施することができた。3つの分科会はそれぞれ活発な活動が展開され、今年度の総会において継続が承認された。

1. 学会体制

新理事長の坂部貢（東海大学医学部教授）のもとで、副理事長2名（吉田貴彦、野崎敦夫）、総務担当理事（木村穰）・財務担当理事（坂部貢）・編集担当理事（木村穰）の常務担当理事各1名、「臨床環境医学」編集長1名（森千里）の体制が2021年7月31日よりスタートした。監事は山田高也会員の退会を機に新たに清野正子会員に委嘱。会員数は現在約250名であったが、年会費未納者等を整理した結果、2022年3月11日現在は194名となっている。メール審議3回を含め4回の理事会、1回の評議員会・総会を開催した。

2. 分科会活動

環境アレルギー分科会（平代表）、環境過敏症分科会（北條代表）、病院・高齢者施設環境分科会（柳代表）の3分科会がそれぞれ活発な活動を展開し、2021年度第1回評議員会・総会において継続が承認された。2020年度活動報告が学会誌「臨床環境医学」と学会HPに掲載されたが、環境アレルギー分科会では「環境アレルギー問題の現状と課題」というタイトルで75ページにわたる活動報告書をまとめられ、学会HPにも掲載した。環境過敏症分科会は数度の研究会を活発に開催され、病院・高齢者施設環境分科会もコロナ下の病院施設のアンケート調査などを実施した。

3. 学会誌

学会誌「臨床環境医学」の編集委員会は角田編集委員長、鈴木編集委員の退任に伴い、鍵直樹理事、佐藤勉理事、東賢一理事を加え、新たに森千里理事が編集委員長となった。同時に事務局を東海大学医学部分子生命科学教室に移転した。2021年度は29(2)及び30(1)の発刊を行うとともに、学術著作権協会への「臨床環境医学」電子版収録を委託した。医学中央雑誌にも学術集

会抄録集を提供した。なお「臨床環境医学」投稿規定の改訂を行った。

4. 学術集会

第29回日本臨床環境医学会学術集会は「人と環境のネクサス」というテーマで関根嘉香（東海大学理学部教授）会長のもと2021. 6. 26から8. 27の期間、室内環境学会に協賛を仰ぎ開催された。コロナ感染拡大の影響で全ての演題をYouTubeによるオンデマンド配信で、質疑応答はコメント欄に記入という変則的な開催となったが、会長をはじめ実行委員会の皆様のご尽力で無事の開催となった。開催方式については臨時の理事会を2度開催した。学会HP管理について

学会HPを2020年度に移転したが、学会内での管理が難しくなったので夏以降、旧学会員の大槻氏に管理を委託した（管理料は謝金処理とした）。更新などは非常に迅速な対応ができた。なお、2022年度は学会支援センターに委託予定。

5. 会計

2020年度会計報告（別紙参照）および会計監査報告が総会において承認されると同時に2021年度予算案が承認された。

6. 業務委託

会員管理業務および学会HP管理業務を2020年度は学会支援機構に委託することになり、2022年3月1日付で契約書を交わした。

7. 日本学術会議協力団体への申請について

今年度は申請に至らず。会員整理が済み次第申請予定。

以上